



小川 やすえ

滋賀県議会議員

●プロフィール●

- 徳島県鳴門市出身●岡山大学文学部卒業●1996年滋賀へ●1997年子育てや女性の一步を応援する「びいめ〜企画室」創設。情報紙発行、コミュニティカフェ運営等に携わる
- 2011年～2014年守山市議会議員
- 2019年～滋賀県議会議員



令和3年12月11日、様々なコロナ対策を施し、中洲ふれあいの灯が点灯されました。令和4年のこの場では、コロナを乗り越え、たくさんの方々と、美味しい幸福ぜんざいを食べられるよう、県政の場でも頑張ります!!

国内で初めてコロナ陽性者が確認されて丸2年となりました。オミクロン株の出現により、県内でも予測をはるかに超えるスピードで感染が再拡大し、医療非常事態宣言を発出し病床の最大化を急ぐと共に、入院基準の見直しなどに取り組んできました。重症者が0と言うことで、様々な議論がある中、県としてまん延防止等重点措置の要請は21日段階では見送ることとなりましたが、検査不足や保健所の逼迫、エッセンシャルワーカーの方達への影響も深刻になっており、さらなる対策も必要です。しっかりと必要な施策が講じられるよう取り組みます。

Topics

- 新型コロナ再拡大!!**
- 9月・11月定例会議一般質問**
- 活動レポート**

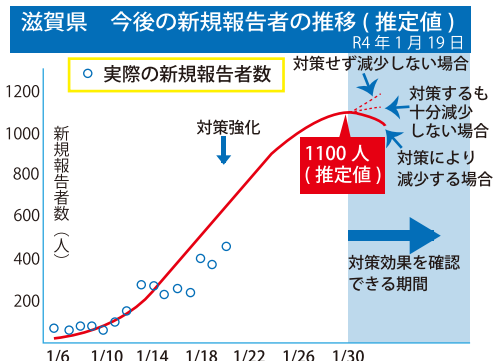
新型コロナ再拡大。1月末には1,100人予測も。

●県内の感染状況

「過去最大新規陽性者」が連日更新され、病床占有率は全国的にも非常に高い状況が続いています。近隣県に「まん延防止等重点措置」が次々適用される中、1月21日に開催された本部員会議で知事は、「1月末には新規陽性者が最大1,100人に登ると推測されるが、その推定値を上回らなければ県内の医療提供体制は維持できる。一部の事業者だけに負担を強いることなく、必要以上に社会活動を止めることなく、この難局を乗り越えていきたい」と述べ、「まん防」の要請を現段階では見送ることを表明しました。

●医療体制の状況

- ・計画上の最大確保病床487床に向け、草津の淡海医療センターに設置される「滋賀県安心ケアステーション」30床も稼働させ、22日の段階で476床に。
- ・入院を中等症以上とするなど、基準を見直し、医療資源をリスクの高い方に重点化。
- ・濃厚接触者の待機日数の短縮。



オミクロン株は重症化しにくく、現在県内では重症者が0ということもあり、「まん延防止等重点措置」に関しては、様々意見が分かれるところです。知事の考えも理解できますが、病床占有率やPCR検査等陽性率の数字を見ると、滋賀県の医療・検査体制は決して十分とはいえません。また、保育園等の休園も相次いでおり、保護者支援も急務です。それらの対策にしっかりと取り組むよう、引き続き様々な場面で訴えます。

さらなる感染拡大に備えた対応

- 1 病床確保、必要な方に医療を**
 - 最大487床の運用を医療機関に要請
 - 安心ケアステーション30床運用開始
 - 必要な方に医療を提供するため臨時的措置実施
- 2 自宅療養者の安心と安全を**
 - 300医療機関で往診・オンライン診療
 - 426医療機関・薬局で経口治療薬処方
 - 56の訪問看護ステーションと連携し健康観察
 - 急変時のケアに見守り観察ステーション整備

- 3 早期検査、感染拡大防止を**
 - イベントベースサーベイランス拡大
 - 高齢者施設等の一斉検査
 - 無症状者への無料検査拡大
- 4 ワクチン接種加速**
 - 3回目接種の推進
 - 広域接種センターの設置前倒し

- 5 事業者へのきめ細やかな支援**
 - 事業復活支援金の庁内サポートチーム設置
 - ワンストップ相談窓口 **077-525-5670** (土日祝除く9:00～17:00)
- 県民の皆様へのお願い**
- ワクチン接種後も基本的な感染対策の徹底を
 - まん延防止区域等への不要不急の移動は控えて
 - 混雑・感染リスクの高い場所への外出は控えて
 - 会食はいつも一緒にいる人と認証店舗でマスク会食・一卓4人以内、2時間以内

※この情報は1月25日段階のものです

第6波においても検査陽性率が全国的に非常に高い状況は続いており、検査能力不足が伺われます。引き続き訴えて参ります。

健康医療福祉部長 ▼ 学校等で陽性者が発生した場合は、積極的疫学調査の中で把握した情報等から、一つの事例の場面・時点ごとに、保健所長が適切に判断し、必要な検査を広く適切に実施している。当該施設やその関係者が、**感染への不安**などから検査範囲が狭いと、思いを持たれることもあるのではないかと。保健所からは検査範囲の判断など、陽性者が発生した施設等への説明を行っているが、引き続き丁寧な説明を行い、不安解消に努めていきたい。

米原市の放課後児童クラブで感染者が確認されたとき、保健所が逼迫し検査もままならず、102人が一斉に一時自宅待機を余儀なくされた。守山市の学校で感染者が出た際、県は12名しか検査せず、市独自で35名を検査した。これらを受け、独自で検査を予算化する自治体も出てきた。検査に関して、**県の言う「必要な範囲」と、市町現場の考える「必要な範囲」にずいぶん差がある。**第5波で感染を押しさえ込み、野戦病院でも注目された福井県では、濃厚接触者の平均8.5倍の人数を「接接触者」として広く検査しており、**全陽性者の30%は、その幅広い「接接触者」から判明したというエビデンスを6月に正式に発表している。**滋賀では、この30%を一定見逃してきた可能性もあるのでは。特に、**ワクチンが接種できない子どもたちの集団に関しては、さらに幅広い検査をすべきではないか。**

9月定例会議（令和3年9月14日～10月8日）

新型コロナウイルス感染症対策について

速やかで幅広い検査体制の拡充を！

9月、11月定例会議では、これまでに取り組んできた「コロナ対策」「高校の不登校」を中心に質問し、さらなる対策を求めました。

滋賀県議会ホームページの録画でもご覧頂けます。

定例会議一般質問報告

保育園、放課後児童クラブが休園になった場合の保護者支援について

市町が中心ということは前提ではあるが、例えば、高齢者施設の例のように市町の枠を超えた保育士の相互派遣とか、広域での保育の実施など、県としてもっとできることがあるのではないかと。

健康医療福祉部長 ▼市町の状況に応じ、引き続き助言し、どのような取組ができるのか、市町と意見交換の場を持つなどして、コロナ禍においても保護者が引き続き安心して子どもを預けられる環境づくりを一緒に考えていく。また、現在他府県における取組を市町に情報提供し、横展開を図っていききたい。

11月定例会議（令和3年11月29日～12月21日）

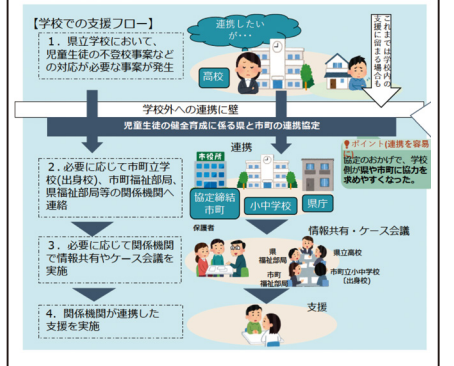
滋賀の高校の不登校の分析と対策について

滋賀県では高校の不登校生徒在籍率が大変高い状態が続いており、平成29年度、令和2年度には日本一となっている。私が登壇した令和元年11月定例会議での代表質問において、「しっかりと分析と、教育と福祉、また市町との連携相談体制の充実などの対策」を訴えたが、その後の取組について問う。

健康医療福祉部長 ▼議員からの提案や複数の市からの要望があり、知事の指示を受け、令和元年の秋以降、健康医療福祉部と教育委員会で不登校等支援の必要な児童・生徒の情報を県と市町で共有する仕組みの構築を進めてきた。京都府や県内の先駆的な市の事例等を調査するとともに、個人情報保護について関係機関の意見を伺いながら、検討してきた。市町との合意形成については、令和2年1月以降、市町の教育委員会や福祉部局と、3回の会議を開催し、丁寧に協議を行ってきた。さらに、何よりも児童生徒や保護者の理解が重要であることから、県立学校のオリエンテーション等の場や教育しがなどの広報媒体を用い十分な周知を図った上で、

pick-up!

滋賀県の連携協定が先進事例として国に取り上げられました！



14市町と令和3年度より県と市町の福祉部局と教育委員会を結ぶ連携協定を締結し取組を始めた。現段階での手応えは

教育長 ▼4月から10月まで、協定に基づいた連携は244件で、協定の締結を機に窓口が明確となり、今まで以上に不登校や発達支援について市町と連携がとりやすくなったと学校から聞いている。また、学校だけではできなかった生徒や家庭への支援にもつながっており、地域で子どもを育てる機運が高まったと考えている。

健康医療福祉部長 ▼ある市の福祉部局からは、協定締結を機に、これまで問題となる生徒が少なく支援のノウハウがない高校から相談が寄せられ、医療機関も含めて早期に連携した支援を行い、不登校の長期化を未然に防ぐことができたという声が届いている。また、この成功例をきっかけとして、この高校で市の福祉部局が合理的配慮に関する研修を実施するなど、関係が深まり、学校全体に福祉的支援のノウハウを伝えられたという効果も伺っている。その他、毎年高校訪問を行ってきた市の福祉部局においても、一部にとどまっていた気になる生徒の情報共有が、協定締結により、学年に関わらず行えるようになり、卒業後の進路についても話し合うなど、学校との間の垣根が低くなったという声も寄せられている。

不登校に関する分析と対応は健康医療福祉部長 ▼高校一年生で新たに不登校になる生徒も多いことから、中学校との連携を深めるとともに、学校行事やホームルーム活動などでの仲間づくりや居場所づくりを進め、新たな不登校生徒を生まないようにする取組を充実させていく。

決算特別委員会（令和3年9月29日～11月12日）



歳出決算額6,721億6,700万円と過去最大となった令和2年度の決算の審議が行われ、会派を代表し総括的質疑を行いました！

国でも課題が指摘されていた指摘されていた「コロナ対策事業者支援委託費」の検証について他、「看護師の確保」「障がい者雇用」「地域猫」「信号機と歩行者の安全」「子どもたちの文化体験プログラム」「スクールカウンセラー等活用事業」等計14項目について質しました。

引きこもりで支援を必要とする方のうち、不登校経験者は6割近くにのぼるとのことです。高校の不登校は、「教育機会確保法」の対象外でもあり、どうしても取り残されがちな分野です。引き続き、県としてしっかりと取り組むよう、訴えて参ります。

また、県立高等学校在り方検討委員会では、不登校の生徒に対する支援の必要性に加え、高校入学後のミスマッチを防ぐ観点から情報発信の在り方についても議論がされた。この議論を踏まえ、これから県立高校を選択される中学生の不安等を少しでも軽減し、入学後の高校生活がイメージできるように、各学校での学びや活動の特色などをホームページや動画で配信したり、在校生が直接中学校に魅力を伝えたりするなど、多様で効果的な手法を用いて、中学生、そして、その保護者に対して発信できるよう工夫をしていきたい。

お漬物とおでんを作りました！ 矢島かぶらゲット！ 年末恒例もりやまいちで、たくさんの方と出会い、お話を伺いました！

もりやま卑弥呼様も感染防止活動を

守山市市政功労者表彰式典 市政功労者表彰でご挨拶

祝 消防出初式 出初式にて。消防の皆様へ感謝！！

活動レポート 胸長に初挑戦。一見綺麗な湖底の下にたくさんのゴミが。792.5kgのゴミが回収されました。 赤野井湾の湖底ゴミ清掃に参加しました！

11月定例会議終了後、会派要望を知事に提出しました。三日月県政を誕生させた「チームしが」の一員として、力を合わせながら、かつ言うべきことはしっかりと、是々非々で県政課題解決に向けてがんばります。